【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和2年12月17日(2020.12.17)

【公表番号】特表2019-534121(P2019-534121A)
【公表日】令和1年11月28日(2019.11.28)
【年通号数】公開・登録公報2019-048
【出願番号】特願2019-545696(P2019-545696)
【国際特許分類】
Ａ４７Ｊ　31/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４７Ｊ　31/02

【手続補正書】
【提出日】令和2年11月1日(2020.11.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
側壁と円形底部とを備える容器であって、前記側壁の内面および前記円形底部の円形底面が粉砕されたコーヒー豆を含むコーヒーフィルタを受け入れるように構成された空洞を画定し、前記容器が、前記側壁の上部に円形の第１の開口部および前記円形底面を通って延びる第２の開口部を画定し、前記第１の開口部の直径は、前記円形底面の直径よりも大きく、前記側壁の前記内面が、前記円形底面の前記直径から、前記円形底面に対してある角度で前記第１の開口部まで延び、前記ある角度が円錐台状の形状になるように１５０度から１６０度の角度であり、前記容器が前記側壁の前記内面および前記円形底面上に、前記第１の開口部と前記第２の開口部との間に直線状に延びる複数の隆起部を備え、前記容器は、前記粉砕されたコーヒー豆を収容する前記コーヒーフィルタに水を注入することによって作られるコーヒーが前記側壁の前記内面を流れ落ち、前記円形底面を横切り、前記第２の開口部から出るように構成される、容器と、
前記側壁の外面から外向きに延在するベースと、
前記容器とは反対側の前記ベース上の内側リングであって、前記円形底面の直径と同じ内径を有する、内側リングと
を備え、
前記第１の開口部は前記ベースの一方の側にあり、前記内側リングは前記ベースの反対側にある、プアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項２】
前記容器の中心垂直軸が、前記第１の開口部の中心と、前記円形底面の中心とを通過する、請求項１に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項３】
前記第２の開口部は、前記容器を出る前記コーヒーの流れを調整するように構成されたノズルを画定し、前記ノズルは前記円形底面の中心に位置し、前記ノズルは、上部のより広い部分からより狭い部分へと底部に向かってテーパが付けられ、前記ノズルは、前記内側リングよりも小さい前記円形底面から延在し、前記内側リングが平坦な表面上に配置されたときに、前記ノズルではなく前記内側リングの底部が平坦な表面に接触することになるように、前記ノズルは前記内側リングより短く前記円形底面から延在する、請求項２に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。

【請求項４】
前記ベースの底部側に複数の支持リブをさらに備え、前記ベースは、前記中心垂直軸に対して非垂直な角度になるように前記側壁から外向きおよび下向きに延び、前記複数の支持リブは、前記ベースの前記底部側の周縁から前記内側リングに向かって延び、かつ、前記内側リングで終端し、前記複数の支持リブの底部側が、カップ上でバランスをとるように構成された前記中心垂直軸に対して垂直な水平面上に均等な支持面を画定する、請求項３に記載のポアオーバーコーヒードリッパ。
【請求項５】
水平平面視において、前記複数の隆起部は、前記中心垂直軸の周りに放射状のパターンをなし、前記複数の隆起部は、異なる長さの隆起部を備え、前記複数の隆起部は、いずれも互いに交差しない、請求項２に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項６】
前記複数の隆起部は、他の隆起部よりも長い４つの最も長い隆起部を含み、前記最も長い隆起部は、互いに約９０度離れて前記放射状のパターンで配置される、請求項５に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項７】
前記複数の隆起部の少なくとも一部が、前記側壁の前記内面から前記円形底面上に延在する、請求項５に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項８】
前記複数の隆起部は、前記複数の隆起部が前記第２の開口部に近づくにつれて、前記複数の隆起部が延びる表面に平行な方向に広がる、請求項５に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項９】
前記複数の隆起部は、前記複数の隆起部が前記第２の開口部に近づくにつれて、前記複数の隆起部が延びる表面に垂直な方向における高さにおいて厚くなる、請求項８に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項１０】
前記円形底面は、前記円形底面の直径から前記ノズルに向かって下方に傾斜する、請求項９に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項１１】
前記複数の隆起部の少なくとも一部が、前記円形底面上に延在しない、請求項７に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項１２】
前記フィルタをさらに含み、前記フィルタが２０個のひだを含み、前記複数の隆起部が４０個の隆起部を含み、前記フィルタが前記第１の開口部と前記第２の開口部との間に配置される、請求項７に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項１３】
前記フィルタおよび前記複数の隆起部は、前記フィルタの内側から、前記フィルタを通して、前記フィルタと前記側壁の前記内面との間の毛細管領域に毛細管現象によりコーヒーを引き込むように構成されている、請求項１２に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項１４】
前記ドリッパが、日本の九州地方からの磁器から構成される、請求項１に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。
【請求項１５】
前記ドリッパの前記磁器は、前記側壁の前記内面、前記円形底面、および前記ノズルの上に滑らかな光沢面を形成するために１３００℃を超える温度で焼成され、前記コーヒーための低摩擦であり、流体の流れが多い経路を形成する、請求項１４に記載のコーヒードリッパ。
【請求項１６】

前記側壁の前記内面は、前記中心垂直軸に対して、６５．７度で角度が付けられている、請求項２に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。

【請求項１７】

前記第１の開口部の直径が１１０ｍｍであり、前記円形底面の直径が４７ｍｍであり、前記第１の開口部と前記円形底面との間の前記側壁の長さが７０ｍｍである、請求項２に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。

【請求項１８】

前記ノズルは、最も狭い点で４ｍｍ～４．５ｍｍの直径を有する、請求項３に記載のプアオーバ式コーヒードリッパ。